



柳家三三

茨木市文化振興財団第167回公演

上方落語五流派競演会 vol.8

桂
福田治

桂
きん枝

林家
染
弥

笑福亭
銀
瓶

月亭
八
方

平成 26 年 6 月 1 日【日】 14:00 開演(13:30 開場)

茨木市市民総合センター・クリエイトセンター・センターホール

【全席指定】 1 階席 4, 000 円 / 2 階席 3, 500 円
 ◎65 歳以上、障害者及びその介助者は 500 円引き ◎青少年(24 歳以下)は 1, 000 円
 ◎茨木市観光協会、茨木市勤労者互助会、OSAKA メセナカード各会員は 10% 引き
 *各会員割引の取り扱いは文化振興財団のみです。*就学前のお子様はご遠慮ください。
 ◆チケットのお申込み・お問合せ
 (公財)茨木市文化振興財団・文化事業係 072-625-3055 (ユーアイホール1階 9:00~17:00)
 インターネットチケット www.ibabun.jp
 *予約後は 1 週間以内に下記のチケットカウンターで精算ください。チケットの引取り・窓口販売は発売翌日からです。
 ●ユーアイホールチケットカウンター 9:00~17:00 ●クリエイトセンターチケットカウンター 9:00~17:00
 ◆その他の販売所 [4月6日店頭販売有り 10:00~]
 ローソンチケット 0570-000-777・Lコード予約 0570-084-005 (Lコード 57590) *ローソン各店舗で購入できます。
 電子チケットぴあ 0570-02-9999 (Pコード 434-466) *サンクス、サークル K、セブンイレブン各店舗で購入できます。

【番組】
 「上方落語界の現状」相羽秋夫*
 「看板のピン」林家染弥
 「禁酒関所」桂きん枝
 「猫の忠信」月亭八方
 中入り
 「天災」笑福亭銀瓶
 「夏泥」柳家三三
 「南京屋政談」桂福田治
 お囃子/なにわの会

4月6日(日) 9:00 予約開始

財団の発売初日はインターネット・電話予約のみです。残席がある場合は翌日から窓口販売いたします。



◆主催:公益財団法人茨木市文化振興財団 ◆後援:茨木商工会議所/茨木市観光協会
 ◆制作:三栄企画 ◆構成:相羽秋夫

上方落語のオリンピック

今冬、オリンピックとパリンピックが、ソチで行われた。メダルを獲得したアスリートのインタビューを聞いてみると、「良き目標、良きライバルに恵まれたことが勝因です」と一様に口を揃えた。

落語も同じように、「良き目標、良きライバル」にめぐり会えることが、各自の芸を磨く有効な手段となる。そのような存在は一門の中にも居ようが、他門下の方がより燃えるものである。そして、こうしてお互いが腕を競い合うことは、落語界全体の向上にもつながる。

そういう意味で、上方落語界五つの門下の代表者が一堂に会して熱い高座を繰り広げることは、数も同じ五大大陸のエリートが集ったオリンピック・パリンピックに符合する。八回目を迎えた「上方落語五流派競演会」で、メダルを競う激しい芸の応酬が展開されることは確実である。この会を見逃す手はさらさらないのである。

さあ、「上方落語のオリンピック」に注視あれとお願ひしたところで、エントリーされた精鋭の顔ぶれを、予定の出演順でご紹介しよう。(敬称略)

□ トップバッターは、林家一門の林家染弥である。四代目染丸の六番目の弟子で、三重県の四日市市から上方落語の魅力に引かれてやってきた。端正な顔立ちから発する本格の語芸で勝負する。昨年度の「大阪文化祭奨励賞」を受賞した。そして今年九月、入門二十一年の節目に、三代目林家菊丸という名跡を襲名する。皆さんにとって染弥での最後の高座になろう。三道楽の一つ「打つ」がテーマの「看板のメン」は、染弥の芸域の広さを示す一席だ。

□ 続いて、五代目文枝一門からは桂きん枝の登場である。三枝改め六代目文枝が、上方落語協会長職にあるため、一門の運営はきん枝の双肩にかかる。柔和な人柄が、その重責に十分に応えている。

□ この後に出演の八方と、故小染、文珍とで組んだ「ザ・パンダ」解消後もマスコミでの活躍は続くが、落語への思い入れも強く、新しい演目への挑戦は絶えない。三道楽の「呑む」が主題の「禁酒関所」も、その一つである。

□ 中入のトリアは、米朝一門から月亭八方が選ばれた。なぜ米朝門下かと言うと、八方の師可朝が米朝の一番弟子で、前名を小米朝と称したことだから。

□ 五年前、大阪の福島に稽古場「八聖亭」を建てて、落語への強い意



相羽秋夫 (演芸評論家)

欲を見せている。早くもそのいぶし銀のような話芸が冴えてきた。襲名直後の文都や息子の八光などの弟子も育ってきた。こちらは三道楽の「女」が彩なす「猫の忠信」で直球勝負する。

□ 笑福亭一門は、笑福亭銀瓶が代表する。銀瓶の師匠は鶴瓶で、七番目の入門である。早くから、古典を腰を据えて勉強するかたわら、唯一の韓国語落語テラーとしての境地を築いた。さらに演劇の分野にも果敢に挑むチャレンジ精神を持っている。

□ そうした総合力で近年銀瓶の存在はめきめきと大きくなってきた。華麗に開花する日も近いことだろう。「天災」は東京種だが、銀瓶の工夫によって上方に根付いた。

□ 大トリアは春団治一門の桂福団治が、しつかりと締めてくれる。このところ体調のすぐれない春団治に代わって、名実共に門下の結束に力をそそぐ福団治である。

□ 染弥と同じ四日市市の出身だが、訛りを克服してしつかりと上方の地に腰を降ろした。手話落語の開発と完成の上に、上方で数少ない人情晰の話し手として存在価値が高い。「南京屋政談」も、東京で「唐茄子屋政談」と呼ばれる一級の人情晰である。

□ 今回のゲストは、東京から柳家三三が来演した。「さんざ」と読んで欲しい。

□ 神奈川県小田原市の出身で、一九九三年に現落語協会長の柳家小三治に入門した二十一年目の中堅である。上方の落語家や講談師が独演会を開く時に、ゲストに招く回数が多くなった。それだけプロの中で実力が認められている証明だ。時には主役よりもゲストが注目されるほど、上方のお客さんの反応が良い。

□ 上方で「打飼盗人」と呼ばれ、演じ手の少なくなった演目「夏泥」を、江戸前の香りと共に伝えてくれる。五流派の激突の中で清涼剤としての役割を果たしてくれよう。

□ 茨木の年中行事として、すっかり定着し、開催を首を長くして待たれているこの会。毎回完売する盛況に、関係者は感激し感謝をしている。その魅力は、ひとえに演者と演目の新鮮さにある。今年も大きな話題を呼ぶことだろう。どうかお早目にチケットのご購入をお勧めしたい。

◆チケットのお申込み・お問合せ

(公財)茨木市文化振興財団 072-625-3055 (茨木市市民会館1階 9:00~17:00)

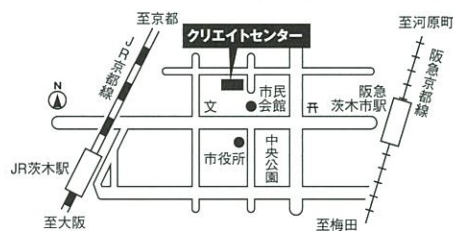
* 財団の発売初日はインターネット・電話予約のみです。お席のご指定もうかがいます。

座席表をご用意いただくと便利です。

* 予約後は、1週間以内に市民会館またはクリエイトセンターチケットカウンターでご精算ください。

* 予約チケットの郵送をご希望の場合は、(チケット料金+郵送料400円)を郵便局備え付けの「払込取扱票」でお支払いください。手数料はご負担願ひします。払込確認後の発送となります。

(払込口座)00970-7-190576 / 加入者名: 茨木市文化振興財団



JR茨木駅から東へ徒歩10分。阪急茨木市駅から西へ徒歩10分。

◆クリエイトセンター(茨木市市民総合センター)茨木市駅前四丁目6番16号/072-624-1726